

あ と が き

澄んだ青空に実りの秋を感じさせる頃となりました。宗谷の地で、北海道各地からたくさんの方をお迎えし、「最北の風薫る宗谷の海と大地に生き 未来を担う子らに 豊かな心と確かな学びを！」を大会スローガンとして、第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会が開催できますことに、心から感謝申し上げます。

さて、農山漁村の過疎化と児童数の減少から極小規模化や統廃合が進んできています。平成13年度第50回宗谷大会時の複式校の割合は、50%（51校／全102校）でした。平成26年度の複式校の割合は、42%（26校／全62校）と統廃合の状況は明らかです。子供たちが暮らす家庭や地域の現実にしっかりと向き合い、力を合わせて子育て運動等の活動を通して、地域ぐるみで「生きる力」をはぐくむことが求められています。

本研究大会は、北海道へき地・複式教育研究連盟第9次長期5か年研究推進計画の1年目にあたり、第8次長期5か年研究推進計画の成果と課題を整理し、第9次長期5か年研究推進計画の課題と研究内容を明確に把握する大会となります。宗谷複式教育研究連盟では、活動方針の1つに“へき地・複式校のもつ「へき地」「小規模」「複式形態」の特性を生かした宗谷ならではの複式教育の充実をめざして研究活動を推進する”を掲げ、研究活動を推進してきました。「子育て運動」「幼保小中高連携」等の教育運動にオール宗谷で組織的に力を注いできました。

宗谷プレ大会が、最北の風薫る宗谷の地で未来を担う子供たちに「たくましくふるさとを切り拓く子供の育成」をめざす実践と検証の場となることを切望しています。これからの北海道のへき地・複式教育のあるべき姿を宗谷管内ならびに全道の仲間とともに学びあう有意義な機会となることを強く願っています。

最後になりましたが、研究紀要を編集するにあたり、ご多忙にもかかわらずご挨拶・ご祝辞をいただきました皆様ならびに各分科会の研究内容を寄稿くださいました会場校の皆様、誠にありがとうございます。本研究大会に多大なるご支援・ご助言をいただきました北海道教育庁宗谷教育局、宗谷管内教育委員会連絡協議会、各市町村教育委員会、宗谷管内教育連携会議、各教育関係団体、さらにさまざまな面でご尽力いただきました各分科会実行委員会、会場校の教職員の皆様に心から感謝申し上げます。

第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会

副実行委員長 浅野 孝一

(宗谷複式教育研究連盟研究部長)